

平成 21 年度

福島県主催 大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業

広野町箒平地区 調査報告書

平成 22 年 3 月

いわき明星大学鎌田ゼミ

目次

I 調査の目的と方法	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 活動の記録	2
3. 「集落点検チェックシート」の結果	3
II 箒平地区の概要	13
1. 位置	13
2. 世帯人員	14
3. 地区の良い所	15
4. 地区の問題点	16
III まとめ	17
1. 今後の活性化案	17
2. 今後のスケジュール	18
3. おわりに	18
参考資料	19

I 調査の目的と方法

1. 調査に至る経緯

そもそも私たち鎌田ゼミは地域福祉に興味がある者を中心に構成されていて、以前から高齢化・過疎化といった問題に関心を持っていた。

6月に、福島県からこの事業のお話を頂き、近くに要支援集落と呼ばれる集落があることを知り、実際に行ってみたいというゼミ生の要望が募った。

そこで実際に福島県双葉郡広野町にある箒平地区を訪れた際に、この集落に辿りつくまでの道が一車線で狭く、草が生い茂っていた為に非常に過酷であると感じた。そこからこの集落で生活する人は不便に感じていないのだろうか？などと考えていくうちにもっとこの集落について知りたいという興味が高まった。

集落の調査と住民の方々との交流を進める上で、そこで暮らす生活者の意見が一番重要であるので、住民主体という想いを念頭におき、住民の皆さんの声を大切にしたい取り組みを進めた。

2. 活動の記録

5月	集落活性化調査委託事業応募及び委託契約、今後の計画設定
6月	広野町役場訪問、第1回籌平地区訪問、傾聴技術の学習
7月	集落支援の先行研究についての調査
8月	農文協の出版物による集落支援技術の学習 8日9日 集落に向かう道の枝払いと草刈り（教養ゼミ延べ40名）
9月	第1回籌平地区調査（1泊2日、籌平集会所及び個別訪問） 14日 1日目：意見交換及び交流会（現状把握、今後の展望） 収集データのまとめ、地図の調整、2日目予定確認 15日 2日目：訪問個別調査
10月	地図による現状把握及び調査票集計とデータ把握
11月	第2回籌平地区調査 3日 →第1回調査のデータ提示、意見交換及び交流会 最終確認作業（データ作成、現状地図の作成） 30日 集落活性化県民討論会にて発表

[主な内容]

○8月

8日、9日にはいわき明星大学の教養ゼミの講義の中にある災害ボランティアを受講する40名が参加し、集落に辿りつくまでの道の枝払いと草刈り作業を行った。

○9月（1泊2日地区調査）

1日目に交流を兼ねながら集落の現状を教えて頂いた。

2日目には個別の訪問調査を行い、集落調査アンケートを実施した。

○11月

意見交換及び交流会とデータ作成における最終確認作業を行った。



福島民法 2009年8月12日朝刊

Ⅱ 箒平地区の概要

1. 位置



図2-1 広野町HP『HIRONO GUIDE MAP』

○広野町のHPより抜粋した地図上にある矢印がさす周辺に位置している。

浅見川という川の上流に位置し、中心部からは約20Km離れている。

住所は福島県双葉郡広野町浅見川字上箒平・下箒平であり、箒平地区は上箒平と下箒平に分かれている。

- ・市役所・役場までは、約13km（広野町役場）、約20km（楢葉町役場）
約32km（いわき市役所）
- ・近くの小学校まで、約13km（広野小学校）
- ・近くの病院、診療所までは、約12km（高野病院・馬場医院）
- ・普段買物する場所まで、約15km（スーパー：アイアイ）
- ・近くのバス停までは約1km²内である。

2. 世帯人員

○世帯数・総数 表2-1 (平成21年9月14日現在)

世帯数	9世帯
総数	18名

○年齢層 表2-2 (男女別・10歳階級別の人口)

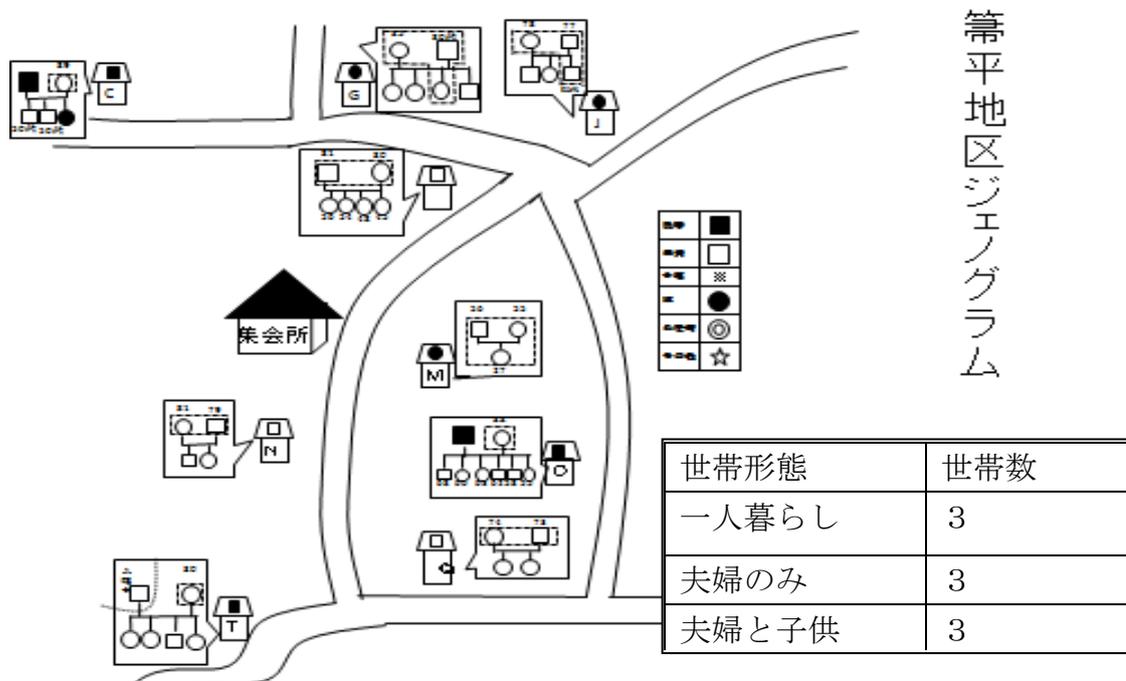
年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	平均
人数	1名	0名	0名	4名	0名	5名	8名	約72

・ここでは表2-1にあるように9世帯18名の方たちが暮らしている。

図2-2で平均年齢73歳とはあるが、若い方で20代が1名で、70代～80代の高齢者が大半を占めている。

昭和30年代半ばから比較すると、人口は当時の16%、世帯数は36%にまで減少している。

○ジェノグラム 図2-2



3. 地区の良い所

交流会での情報を元にまとめた良い所が以下の大きく分けて5つである。

- ① 大自然
- ②健康な人が多い
- ③自給自足の生活を営んでいる
- ④ロハスな生活が実践されている
- ⑤好きなことができる

1つ目に「大自然」だが、この集落は山に囲まれ、田園風景が広がっている。緑がたくさんであり、空気や水などが綺麗という好条件が2つ目の「健康な人が多い」という点に繋がる。鈴木区長の話によるとここにはアレルギー(アトピー・花粉症など)やぜんそくの子や孫がいないそうで、がんなどに罹患した人がいるなどという話もない。地区全域のほとんどが緑なので、視力回復の点においても良い。

3つ目に、「自給自足の生活」ということだが、住民の方々の大半が農業を行っているので、野菜や米などの作物には困っていないし、食品添加物の入った食品を口にすることも少ないので大変健康的である。

続いて4つ目に「ロハスな生活が実践されている」と感じられる。ロハスとは健康や環境に気を付けたライフスタイルのことであるが、ここではまさにそれが自然と実践されているのである。家畜を飼う家庭もなく、川を汚染する要因が殆どないのでイワナやヤマメなどの川魚が豊富である。

最後に5つ目に、「好きなことをできる」ということだが、それぞれの家々が離れている為に、草刈りなどの作業の音を気にせずに行えるという田舎ならではの利点が集落の人の自慢でもある。

これらの他に、山に入るとキノコなどが採れ、白こごみという名の珍しい山菜も獲れる。美しい花も自生していて、特に4月くらいに咲く、アケボノつつじ(ボケの花・あかやしお)が住民からの人気である。

4. 地区の問題点

○危険個所がある

- ・がけ崩れなどの自然災害の発生しやすい場所がある。
- ・見通しが悪く、交通事故が起こりやすい場所がある。
- ・サル・イノシシ・ハクビシンによる被害獣害がある。

まず土砂崩れやがけ崩れなどの自然災害の発生しやすい場所があるという点だが、特に集落と市街地をつなぐのは1本道なので風水害時に閉鎖する恐れがあるというのは大変困ることである。

続いて交通事故が発生しやすいというのは集落内にはそれほどないが、見通しの悪い狭い道を通る為に外部から来た人にとっては危険な場所になりうる。

またサルやイノシシ、ハクビシンなどの動物は農作物を食い荒らしたりする獣害問題は深刻だ。特にイノシシは家の垣根を破壊するので、危険である。

○人口の減少

先ほどの世帯人員のページにもあったように、この集落は昭和30年代から比べると世帯数は36% 人口は16%にまで減少した。

これほどにも人口を減少させるに至り、1番に考えられる理由は、ここで収入を得ることが難しいということだ。山の資源である山菜などは一斉に出てすぐに腐ってしまう為に販売は不可能であるということや、田んぼをやっても1反当たり7俵程度の収穫しかないこと、標高が高く気温が低い為に寒い時期になりますと野菜が霜にやられてだめになってしまう

ことなどで利益をうむ状況にはないそうだ。

また、70代80代の方が中心なので、高齢で農業は出来ないと話す。また、電波塔が無くインターネットや携帯電話が使用できないために、若い人に生活はできないということがあげられた。

加えて集落に住む人だけでは新しいことを始めるための体力、気力がないということなどが大きな問題である。

Ⅲまとめ

1. 今後の活性化案

○住民のニーズ

まず今後の展望として住民のニーズだが、道路を2車線にしてほしい。20代の若い人材がほしい。外部者による盗みがあったので警察の巡回を望んでいるという3点が挙げられた。

以上のニーズと集落における良い所を生かした活性化案を3つ挙げる。

- ① アトピー子供静養システム
- ② 道路の二車線化
- ③ 箒平インターンシップと授業での支援

① アトピーの原因は様々だが、食生活やストレス・環境汚染なども要因のひとつだ。この箒平地区では自給自足が殆どの為、食品添加物の入っている食料を食べることが少なく空気や水が本当に綺麗だ。

これはあくまで仮説だが、生後1年ここで暮らすことによってアトピーになりにくい体質になるのではないかと住民の方の意見もあった。又、この集落には空家があり、有効活用できるのであれば、これらの空家を利用して静養システムの計画を立てることを今後検討していく。

② 道路の二車線化について

この集落から車で20分ほど下ったところに大滝旅館という旅館がある。そこから箒平地区へ向かうにつれて道幅が狭く、対向車とすれ違うのも、どちらかが後退する他なく困難だ。日が落ちて暗くなると電灯も殆どなく、ガードレールもところどころ無いところがあり道に慣れない人は運転が億劫になってしまう

住民の方々からも、道路が広くなればもっと人が来るのではないかとという声もあり、このような地区の意見を吸い上げていただけるよう私たちが働きかけていきたい。

④ 箒平インターンシップと授業での支援

大学のインターンシップの活動先メニューとして箒平地区の環境整備するなどの活動をさせていただく。などということや、教養ゼミで今年草刈り作業を行ったように、今後活動先として継続した支援を行うということなどを考えていく。

2. 今後のスケジュール

1段階として、芋煮会・もちつき・草刈り・花見などの交流を通じて、住民の方との信頼関係を深めていき、2段階としては活性化策を実施する為の企画と実施、又、住民と共同して郷土料理を考案するなど、箒平住民と大学とのコラボ企画を検討していく。

3. おわりに

箒平地区には、大自然という最大の『地区財産』がある。広野町の水源地でもあるため、地区財産である大自然の景観を崩さず、新しいものを作り出すのではなく、地区財産保護活動をする事が地区活性よりも一番先決であると考えられる。地区財産保護のためには、地区住民の力が必要であるが、現在の地区住民の方は、地区活性に関して精神的に諦めがあるのが現状だ。

その失いかけた活性化意欲を、取り戻すためにはどうすべきなのだろうか？そこで私たちは住民の方の意見を中心に、イベント等を開催したり、夢を語り合ったりして、集落活性化の土台作りから始めようと考えている。

又地域財産保護活動に力を入れ、地域住民と私たち、集落に関連のある方々で足踏みを揃え、全員全脚していければ本望だ。

今後箒平地区が消滅しないためにも、集落支援活動を末永く続けていく所存である。

加えて、私たちも集落と共に成長していけたらと思う。

素晴らしい機会を与えて頂いたことに感謝しております。

参考資料

- ・農文協(2008)『2008年現代農業 11月増刊 集落支援ハンドブック』
- ・福島県広野町(2009)『広野町勢要覧 2009』
- ・広野町 HP
(http://www.town.hirono.fukushima.jp/useful/town_map.html)